



JAPAN HERITAGE

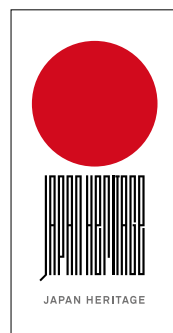
いにしへの麓を歩けば
武士達の息づかいが聞こえる。

日本遺産



薩摩の武士が生きた町
～ 武家屋敷群「麓」を歩く～





「日本遺産」とは

各地域の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定し、ストーリーを語る上で欠かせない、魅力ある有形・無形の様々な文化財を総合的に活用し、情報発信を行うことなどにより、地域活性化を図ろうとするものです。

薩摩の武士が生きた町 ～ 武家屋敷群「麓」を歩く～

令和元年 5月 **日本遺産** に認定されました

構成自治体(県・9市)

鹿児島県、鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市

INDEX

「薩摩の武士が生きた町」の概要 … P2 ～ P6

- | | | |
|-----------------|------------------|------------------|
| ● 鹿児島城跡 … P7・P8 | ● 里麓 … P15・P16 | ● 知覧麓 … P23・P24 |
| ● 喜入旧麓 … P9・P10 | ● 手打麓 … P17・P18 | ● 加世田麓 … P25・P26 |
| ● 出水麓 … P11・P12 | ● 串木野麓 … P19・P20 | ● 垂水麓 … P27・P28 |
| ● 入来麓 … P13・P14 | ● 蒲生麓 … P21・P22 | ● 志布志麓 … P29・P30 |



薩摩の武士が生きた町 ～ 武家屋敷群「麓」を歩く～

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島。そこには本城の鹿児島城跡や、県内各地の山城跡の周辺に配置された「麓」と呼ばれる外城(とじょう)の武家屋敷群が数多く残っています。



【日本遺産】
薩摩の武士が生きた町
～ 武家屋敷群「麓」を歩く～
を構成する武家屋敷群「麓」



シラス台地特有の地形を利用して築かれた山城の裾野に広がる「麓」(志布志麓)



重要な拠点は計画性の高い都市として整備された。(出水麓)

麓を楽しむための目安

歴史に詳しい方でも、歴史初心者でもお楽しみいただけるよう以下の目安を設けています。



往時の様子、案内板、現地ガイド、食の要素が揃い、歴史初心者でも安心して楽しめます。



往時の様子、案内板、現地ガイド、食の要素が揃い、少しの知識と想像力があれば十分楽しめます。



事前の情報収集で予備知識を蓄えての訪問がオススメ。麓の旅がより一層味わい深いものとなります。



城にまつわる人物など、入念な事前学習を。当時の麓の面影があなたの豊かな想像力で蘇ります。

アイコン凡例

- 駐車場
- トイレ
- 観光案内所

薩摩武士の暮らした“麓”を歩く

【ストーリーの概要】

勇猛果敢な薩摩武士を育んだ地、鹿児島。江戸時代、薩摩藩は、外敵からの攻撃に備え、本城である鹿児島城を中心とし、県内各地に外城(とじょう)を配置し、武士団を住まわせていました。

これは外城制度(とじょうせいど)と呼ばれ、薩摩藩独自の体制でした。

現在、鹿児島市の鹿児島城跡を中心に、外城の中心地である麓(ふもと)と呼ばれる武家屋敷群が、県内各地に数多く残されています。

麓は、防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城のような構造を持っていました。そこでは武士達が心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。

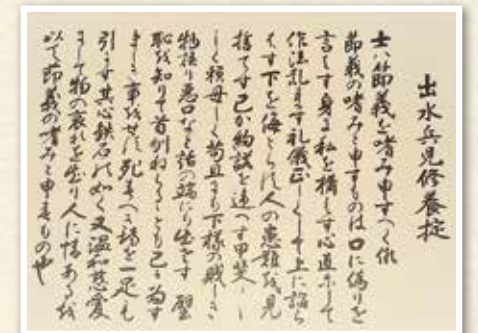
本城の鹿児島城跡や外城の武家屋敷群を歩けば、薩摩の武士達の往時の生き様が見えてきます。

麓の典型的な構成



“麓”での薩摩武士の暮らしについて

江戸時代の薩摩藩は、他藩に比べて武士の人数が多く、藩の4分の1が武士でした。そのため、本城である鹿児島城の近くにすべての武士を住ませるのではなく、領地の中を小さく分け、武士を分散させて住ませる独自の体制(外城制度)がとられていました。関ヶ原の戦いに敗れた薩摩藩は、幕府や他藩への警戒心が強くなりました。平和な江戸時代、幕府や他藩の武士たちが武芸をおろそかにする一方で、薩摩藩の武士たちは日々、武芸に磨きをかけ、軍事力を強化していました。



出水兵児修養掟 出水藩歴史館所蔵
青少年をたくましく育てるために作られたといわれる出水麓に伝わる教え。“うそをつかず、素直に礼儀正しく…”などの教訓が書かれています。

“麓”の成り立ちと「中世山城」の特徴

鹿児島県には、江戸時代以前に、シラス台地の山を削ってつくられた「山城」とよばれる城の跡が数多く残っていました。薩摩藩はその近くに、「麓」とよばれる集落をつくり、武士たちを住ませました。鹿児島城下に住んだ武士は、「城下武士」、麓(外城)に住んだ武士は「郷土」とよばれました。江戸時代末の薩摩藩の領内には120カ所もの麓があったといえます。

薩摩武士が好んださつまあげと芋焼酎

江戸時代の薩摩藩士が食べていた独特なものに「焼酎」と「薩摩揚げ」がありますが、いずれも海外の影響を受けたものです。1540年代のポルトガル人の記録にすでに登場する焼酎は、江戸時代に薩摩芋が入り、芋焼酎が誕生します。蒸留酒製造の技術は海外から入ってきたものであり、これを日本酒のように湯や水で割るのは日本と海外の文化の融合といえます。「薩摩揚げ」も海外の影響を受けたものです。「つけ揚げ」の異名は、中国南部の「チキアーゲー」からくるものと考えられます。



国指定史跡 志布志内城跡模型(県歴史資料センター黎明館展示)



島津家久像 尚古集成館所蔵

島津家久(1576～1638年)は、関ヶ原の合戦以後、父義弘に代わり徳川家との関係修復に努め、慶長7(1602)年に、薩摩・大隅・日向を家康から安堵され、同年、薩摩藩初代藩主となりました。家久は、鹿児島城(鶴丸城)の築城とともに城下町の整備に着手し、次第に鹿児島城を本城とする藩の支配体制が確立されていきました。

薩藩御城下絵図 県立図書館所蔵

寛文10(1670)年頃の鹿児島城下を描いたもの。中心に描かれた中世山城跡の下に城主の館が配置され、その前に整然と区画された武家屋敷群、更にその周囲を河川、海などからなる堀で囲む構成は、各地に置かれた麓の手本となりました。

城をもって城とせず 人をもって城となす

1600年の関ヶ原の戦いで徳川家康が天下を取ると、江戸幕府は一藩には一つの城のみを認める「一国一城令」を發布しました。これに対して、薩摩藩初代藩主の島津家久は、自らの居城となる鹿児島城(鶴丸城)を築き、ここを本城とし、各地に点在する「麓」を外城として、薩摩藩全体を防衛するための拠点として武家屋敷群を整備していきました。

薩摩藩独自の“外城制度”が 生まれた歴史的背景とは

中世以来の守護大名であり、戦国時代末には九州全土を平定する勢いだった薩摩の島津氏は、豊臣秀吉の九州平定で敗れ、領地を大幅に削減されましたが、武士の数は減らしませんでした。このため、薩摩藩は他の藩より武士の割合が高くなり、全人口の4分の1程度を武士が占めていました。そこで、他の藩のように、本城である鹿児島城の城下に全ての武士を集住させることができず、独自の外城制度として、各地の山城の周辺に「麓」(武家屋敷群)をつくり、数十人から時には数千人を配置することにしました。こうして、各地に武士団の集住地が存在する、薩摩藩独自の制度が生まれたのです。

外城制度の要・鹿児島城(鶴丸城)

鹿児島城の特色は天守閣を有しない屋形づくりでした。初代薩摩藩主・家久の築城以後、歴代藩主のもとで鹿児島城を中心に、甲突川の流路変更や新たな町割りなど、城下町の整備が進められました。



— 国境 — 島津直轄地
— 郡境 — 私領地(領主) 「外城」は1784年より「郷」と改正

藩内各地に整備された 最大120もの“麓”

「麓」は、シラス台地の端にある山城跡と近くを流れる川に挟まれた、防御に適した場所に多く作られ、その数は、江戸時代末の薩摩藩領内には120カ所もありました。麓の中心には、「仮屋(かりや)」と呼ばれた役所や、私領の場合は領主の屋敷がありました。その周囲を「馬場」と呼ばれる何本かの広い道と、人が歩ける程度の狭い道とで町割され、その間に武家屋敷がそれぞれ隣接するように配置されました。

江戸時代における薩摩藩の外城配置 県歴史資料センター黎明館所蔵

外城は現在の行政区画に当たり、1784年の記録では、藩直轄地が92カ所、家来である領主が収めた私領が21カ所の合計113カ所ありました。1つの外城に複数の麓が置かれる地域もあったため、外城に対し麓の数が多くなります。

「麓」武家屋敷群の特徴的施設



かりや
仮屋(お仮屋門)

麓の中心に置かれた「仮屋」の周辺に、重臣の屋敷や郷士の屋敷が配置されました。地頭仮屋は、藩主の参勤交代・巡見等の宿泊所としての役割もありました。



うば
馬場

武家屋敷の周囲に何本も通された「馬場」は、武士が武術の訓練をする場所でもあり、集落全体で侵入者に対する備えとしての役割もありました。



鹿兒島藩外城制度の要



眼前に桜島を望む地で 薩摩藩の礎を築いていった

もともとは、シラス台地特有の地形を生かした上山氏の山城を、関ヶ原の戦いの後、初代藩主・島津家久が島津家の居城として麓に館を加えつくった城が鹿兒島城です。別名本城ともよばれ、鹿兒島城下町形成及び外城制度の中心となっていました。

- ① 城山展望所から鹿兒島市街地を望む
- ② 鹿兒島城本丸跡と濠
- ③ 鹿兒島城二之丸跡(現県立図書館入口)
- ④ 探勝園…鹿兒島城二之丸庭園で、25代当主重豪のときにつくられました。島津斉彬・久光・忠義の銅像があります。



屏風「鹿兒島城下絵図屏風」 県歴史資料センター黎明館所蔵：玉里島津家資料(部分)



県歴史資料センター・黎明館

島津家の居城鹿兒島城(鶴丸城)の本丸跡に建てられた県の歴史資料センターです。鹿兒島の歴史・民俗・考古や美術・工芸をはじめ世界文化遺産に関する展示・研究が行われており、貴重な文化遺産が18万点も収蔵されています。ジオラマや映像、クイズなどで、歴史的な時代背景を楽しく学ぶことができ、鑑など試着できる体験学習コーナーもあります。



鹿兒島城模型(黎明館展示)

鹿兒島城は、上山城と麓の屋形から成り、天守はありませんでした。濠と石垣に囲まれた本丸が模型で再現され、往時の様子を今に伝えています。



出水外城模型(黎明館展示)

藩内で最大の外城であった出水麓の様子を再現したジオラマ。地頭仮屋・重臣の屋敷・演武地・宗廟等が配置され、藩主の参勤交代の様子も再現されています。

2020年春 完成予定



鶴丸城 御楼門(建設中)

2020年3月の完成を目標に、現在建設に取り組んでいます。完成後は日本最大の城門となり、鹿兒島の新しいシンボルとなることが期待されます。



鹿兒島城跡

鹿兒島の外城制度の本城、鹿兒島城※。薩摩藩主・島津氏は鹿兒島城を中心として、藩内 113 の外城を設け、島津一門家や重臣の領地である“私領”や、島津宗家直轄の“地頭所”を配置し、独自の防衛体制を築きました。立派な石垣と堀に囲まれた本丸跡にある黎明館では、麓の発祥の元となる中世山城や、典型的な麓集落のジオラマや解説があり、日本遺産「薩摩の武士が生きた町」を巡るスタート地点として最適です。

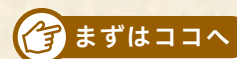
※通称は鶴丸城



P 黎明館 利用者は無料

黎明館内

黎明館



まずはココへ

県歴史資料センター黎明館

鹿兒島市城山町7-2

099-222-5100

9:00~18:00(入館は17:30まで)

月曜日・毎月25日・12/31~1/2

小・中学生:150円 一般:400円

高校・大学生:250円



麓の原風景を巡る



歴代の肝付氏が治めた 中世山城の面影を探して

かつて喜入領主肝付氏が所領していた土地には、
今なお湧水の水路のある通りに武家門や石垣などが
残っています。喜入旧麓の背後にある山城跡、
武芸の稽古をした馬乗り馬場、激しい戦いの話が
伝わる何万ヶ宇都などの地名が残る麓の原風景を
訪ねてみませんか。

きいれ 給黎城跡

島津氏がこの城を手に入れたことを祝って「給黎」から「喜入」と
なったといわれます。



肝付家歴代墓地

文禄4年(1595年)以降、270年余りにわたって喜入を治めてきた肝付家の墓地。
肝付家12代のうち3代から12代までの歴代領主の墓が見られます。



こべがぶち 香梅ヶ淵

四季や天気により池の水がエメラルドグリーンやコバルトブルーに見えること
もあります。神秘的な雰囲気はパワースポットと呼ぶにふさわしい場所です。



き いれ もと ふもと 喜入旧麓

江戸時代が始まって間もない1650年代、突然の麓の移転で時が止まっ
てしまった“旧”麓。しかし、幕末までの約250年もの間に刻々とその姿を
変えていった他の麓に対し、喜入旧麓では1650年代当時の貴重な麓の
原風景を味わうことが出来ます。中世山城跡の裾の曲がりくねった街道沿
いに作られた石垣、そこに流れる水路、そしてその先に広がる田園風景が、
あなたを約400年前の空間に誘います。



ふれあい広場 無料 ふれあい広場 喜入公民館

喜入旧麓の水路

地区内には、湧水を利用し
た水路が道路沿いにあり、
武家門や生垣、石垣が連な
る様子は、当時の面影を今
に残しています。



立ち寄りスポット



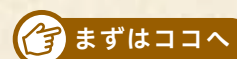
南方神社

境内にはクスノキやムクロジの大木が
並び、パワースポットとされています。
映画「ゆずの葉ゆれて」の撮影も行われ
ました。



喜入牧

鹿児島市観光農業公園の周辺は、古くか
ら馬の放牧が盛んな場所でした。公園内
には並(おろ)と呼ばれる馬を追い込む
ための土塁状の遺構が残っています。



まずはココへ

喜入公民館(喜入支所内) 鹿児島市喜入町7000 099-345-3751 8:30~22:00 12/29~1/3



錦江湾を見下ろす高台で 穫れたての山幸を召し上げ

広大な敷地に農産物直売館や農園レストラン、体験用農
地、キャンプ場、遊歩道、遊具、滞在型市民農園などがあ
り、農業や食・環境などの体験や学習ができる施設です。

●グリーンファーム(鹿児島市観光農業公園)
【住所】鹿児島市喜入一倉町5809番地97
【営業】(11月~3月)9:00~17:00/(4月~10月)8:30~18:00
【定休日】12月29日から翌年1月1日 Tel.099-345-3337





山と川に抱かれた 中近世の麓



茅葺屋根のニツ屋住居で 大正期の暮らしを再現

整然とした区画割りの通りに、かやぶき門、御仮屋跡など多数の史跡が見られます。旧増田家住宅は、大正期の姿に復元された住宅で、オモテとナカエからなる別棟型民家の特徴を有し、平成26年に国の重要文化財に指定されました。

- ①②旧増田家住宅(外観・内観)
…旧増田家住宅は、母屋、石蔵、浴室便所、洗いが一体となって保存されています。敷地入口には、明治6年の石敢当(せっかんとう)があり、母屋はその頃までに建築されたと考えられています。
- ③生垣…通りには美しく刈り込まれた生垣が見られます。
- ④赤城神社…清色城内の守護神として創建されたと伝わる神社。



お仮屋馬場の堀(水路)
現入来小学校の手前には、鯉が泳ぐ堀があり、春には桜が咲き誇ります。



かやぶき門(入来院家武家門)
入来院氏の家臣団筆頭である庶流入来院氏宅の武家門。中世渋谷家の様式を伝える稀少な文化財となっています。



いり き ふもと 入来麓

入来麓は中世の清色城跡と蛇行した樋脇川に囲まれた場所に作られた、防御性の高い麓です。中世の曲線的な道沿いの町なみと、近世に拡張整備された格子状の整然とした区画の、2つの対照的な景観が広がっています。鎌倉時代からの伝統を誇る領主・入来院家に伝わる 中世以降の豊富な入来文書や、茅葺きによる入来院家の武家門など、入来院家にまつわる歴史にも要注目です。

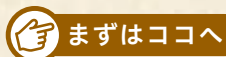


清色城跡
丘陵地の地形を利用して築かれた東西 750m、南北 550mの山城です。麓に置かれた居館(領主仮屋)跡地は、現在は入来小学校として利用されています。

堀切(切通し)
自然の地形を利用して築かれた清色城跡の入口にある堀切(切通し)。簡単に外敵が侵入できないような仕掛けとしても機能していました。



諏訪温泉
人里離れた愛宕山麓にある一軒宿。男女別の大浴場の他宿泊施設も備え、湯治滞在も可能な歴史ある温泉です。



まずはココへ

入来麓観光案内所

薩摩川内市入来町浦之名35-2

0996-44-5200



武家屋敷で武士に変身!? 本格的なサムライ体験を

中世からの町並みが残る武家屋敷群で、本格的な甲冑姿や着物姿を体験し、郷土料理を味わうサムライツーリズムを楽しむことができます。

- サムライ変身体験
【営業】当日受付可 【料金】(大将クラス)3,500円～
- 着物着付け体験
【営業】事前予約 【料金】3,500円～
TEL.0996-44-5200(入来麓観光案内所)





海上交通の要衝、 甑島の“北”の防衛拠点



山城の麓に築かれた 玉石垣が魅力の武家屋敷群

上甑島の里麓には、かつて小川氏が統治していた頃の名残として武家屋敷通りが残っています。里麓の武家屋敷跡は整然と積み上げられた玉石垣と生け垣が特に美しく、夏には通りにカノコユリが咲き、観光客を魅了します。



亀城跡

通称「城山」ともいわれ、中世、甑島を統治した小川氏の居城となっていました。



玉石垣の通りと石敢當(せっかんとう)

甑島の武家屋敷は浜のすぐそばにあるのが特徴で、屋敷周辺がきれいな玉石垣で囲まれています。また、魔除けの意味をもつ石敢當を見ることができます。



トンボロ(陸繋砂州)

里麓はトンボロと呼ばれる独特の地形の上に成り立っています。トンボロとは、沿岸流によって運ばれた砂や石が、波の作用によって水面上に現れたもの。



さと ふもと 里 麓

中世山城跡の裾にある御仮屋跡。そこを中心に広がる武家屋敷群。里麓は本土の麓と構成は同じながら、海に面しており、海路の往来を監視するという役割が大きく異なります。外観では、近くの浜で採れる大きな玉石による石垣や、武家門の見られない武家屋敷群など、素朴なたたずまいが特徴です。中世山城跡で、展望所が整備されている亀城跡から武家屋敷群を眺めるのもお勧めです。



里港駐車場 里支所駐車場 無料
 里港 里支所
 上甑島観光案内所 (里港ターミナル内)

里の武者踊

武者踊は古来、里町と下甑町手打において行われていて、里の武者踊は出陣、手打の武者踊は凱旋の踊りだったといわれています。



立ち寄りスポット



津口番所跡

甑島の津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われていました。



地頭仮屋跡

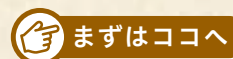
当時の地頭仮屋は、現在の里小学校校庭の大半を占めていました。



通りの散策に疲れたら 集落内のオアシスでひと休み

玉石垣の美しい武家屋敷通りから徒歩3分。風味豊かなとうふを作っているお店。ゆったりとした島時間の流れる空間で、島の焼酎や珈琲も味わえます。

●山下商店(甑島本店)
 【住所】薩摩川内市里町里54番地
 【営業】8:30-12:00 / 15:00-18:00
 【定休日】不定休 TEL.09969-3-2212



上甑島観光案内所

薩摩川内市里町里1619-13

09969-6-3930



海上交通の要衝、 甑島の“南”の防衛拠点



美しい海岸沿いに築かれた 古の記憶を宿す武家屋敷群

甑島最南端の手打集落のほぼ中央の旧道に約 700 mに及ぶ旧武家屋敷の町並みが残っています。かつて平家の落人が住居を構えたという言い伝えもある武家屋敷通りは、今では住居のほとんどが改築されていますが、玉石積みの石垣や垣根など、静かなたたずまいの中に古の記憶を偲ばせてくれます。



手打集落



津口番所跡

江戸時代、甑島は異国船監視の拠点であり、手打港近くの津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われました。



下甑郷土館

通りのほぼ中央には「下甑郷土館」(入館無料)もあり甑島の歴史・文化を学ぶことができます。

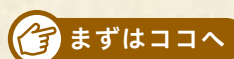


て うち ふもと 手 打 麓



P 下甑支所 駐車場 無料
人 下甑支所 下甑郷土館
? 下甑島観光案内所 (長浜港ターミナル内)

手打麓は手打湾に沿って湾曲した麓で、本土の麓と異なり、海に臨む立地が特徴です。本土の麓が道路を行き来する人々を監視するのに対し、甑島の麓が“海路”を行き来する人々を監視対象としていたことを、海の近くに設けられた津口番所跡が物語っています。近くの浜で採れる大きな玉石による石垣や、南国の花や樹木で形成された生垣など、独特の風合いの町並みを海風とともに歩いてみてください。



下甑島観光案内所

薩摩川内市下甑町長浜913-4

09969-5-1800

武士踊

一説によると、鎌倉時代小川氏が甑島に下向した折にもたらされたものであり、その後、島津氏が甑島を統治し、関ヶ原の戦い等への出陣、凱旋を機会に奨励されたといわれています。



立ち寄りスポット



手打海水浴場

手打集落からほど近い浜辺は人々の憩いの場となっています。



甑ミュージアム恐竜化石等準備室

恐竜の化石が発掘された下甑島の鹿島支所内に恐竜標本などが展示されています。



島ならではの食材を活かした 豊富なメニューでおもてなし

地産・地消を基本に地元の食材を使った食事が楽しめます。その日獲れた魚介類など素材を厳選した日替わりメニューもありおすすめスポットです。

●てうちん浜や 【住所】薩摩川内市下甑町手打61
【営業】ランチ:11:00~14:00 【定休日】火曜日
定食:800円~1,500円(税別) ※季節により内容は異なります。
カフェ・売店:11:00~20:00(閉店21:00)
Tel.09969-7-0005





小さな手掛かりと 大きな想像力で蘇る麓



中世山城を中心に築かれた 串木野麓の面影を訪ねて

串木野麓は、島津四兄弟の末弟である島津家久が地頭として治めていた頃、串木野城下に麓集落が形成されたものとされます。中世山城の趣を残す串木野麓で往時の面影を見つけてみませんか。

- ①串木野城跡(亀ヶ城)…島津家久の嫡男で、関ヶ原合戦で島津義弘に敵中突破を進言し自らは身代わりとなって戦死した島津豊久の生誕の地といわれています。
- ②串木野麓…美しい武家門や石垣、古い屋敷などが残っています。
- ③南方神社…朝鮮出兵の際、島津義弘が参拝し、神楽を奏し順風を祈願したと伝わる神社。
- ④石製水道管…本城の鶴丸城に見られるような石製水道管。



地頭仮屋跡

東西に延びる壁面は、串木野城外曲輪の一部にあたり、現在の石垣は明治30年頃に築かれたものです。地頭仮屋を中心に四つの郷があり麓四郷と呼ばれていました。



串木野金山

薩摩藩による串木野での金山開発は、1660年頃、芹ヶ野で本格的に始められました。現在でも金の一部採掘及び製錬は続いており、今までの採掘量は全国4位です。

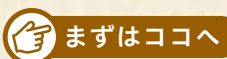


くしきのふもと 串木野麓

串木野麓は中世の串木野城を中心に広がっていた麓です。周辺開発が進み、麓の面影は断片的ではありますが、古地図に残された地名で解読可能です。串木野城は歴史上名高い戦国武将ゆかりの城でもあり、また、城周辺には曲輪を利用した神社や、立派な武家住宅など、江戸の景観が凝縮されています。日本遺産の麓巡りを締めくくる最後の1ピースとして、是非あなたの実力をお試しください。



- P 総合観光案内所 無料
- 総合観光案内所
- ? 総合観光案内所



いちき串木野市総合観光案内所 0996-32-5256



360余年の間掘り続けられた 総延長120kmの金山坑洞

薩摩藩の栄華を支えた串木野金山で、坑洞を利用した独自の焼酎造りが行なわれています。トロッコ列車に乗って坑洞内の焼酎蔵を間近に見学することができます。

- 焼酎蔵 薩摩金山蔵
- 【住所】いちき串木野市野下13665
- 【営業】10:00～17:00 【定休日】火曜日
- 【料金】無料(金山坑洞内の焼酎蔵見学は大人720円)
- Tel.0996-21-2110



麓歴史資料館

串木野城址の歴史を紡ぐ歴史資料館。
【住所】いちき串木野市上名2744
Tel.096-32-5256
(いちき串木野市総合観光案内所)





街道沿いに続く優美な麓 “薩摩の小京都”



質実剛健な屋敷の佇まいと 美しい石垣と生垣の通り

国の重要伝統建造物群保存地区に選定されている知覧の武家屋敷庭園群は、曲折ある道路に沿って連なる石垣と生垣や、薩摩の小京都と称される7つの美しい庭園が見どころです。外敵を防ぐために屋敷入口に置かれた大きな岩(屏風岩)も特徴。

① 平山克己邸庭園

波状に刈られたイヌマキの生垣を山に見立て、遠くにそびえる母ヶ岳を庭園に組み入れた借景の技法がとられた枯山水の庭園があります。



② 西郷恵一郎邸庭園

敷地の東南で枯滝を組みさらに西側に飛び石が配してあります。屋敷に入るため門をくぐると石組みの壁にぶつかります。



③ 森重堅邸庭園

知覧城の出城であった亀甲城の麓に位置し、指定を受けた7庭園で唯一の池泉式の庭園です。

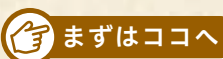


ち らん ふもと 知覧麓

知覧麓は鉤型の旧街道沿いの両側に石垣、生垣が整然と続き、その間に武家門を持つ武家屋敷が並ぶ、薩摩の典型的な武家屋敷群の形を表しています。武家屋敷の武家門をくぐった正面には防衛のための切石などの目隠しがあり、屋敷の一面に母ヶ岳を借景とする美しく優雅な庭園が造られています。江戸中期の空間にタイムスリップできる、「武家屋敷群「麓」を歩く」入門編としてお薦めの麓です。



P 市営駐車場 有料
市営駐車場内
知覧武家屋敷庭園事務所



知覧武家屋敷庭園事務所

南九州市知覧町郡13731-1
0993-58-7878

9:00~17:00
年中無休

大人:530円
小人:320円



知覧型ニツ家民家で 知覧茶と郷土菓子に舌鼓

本来分棟だった居住部分と台所・土間をつないだ建物のことをニツ家民家といい、知覧では棟をつなぐ形状がL字型と独特で、知覧型ニツ家民家と呼ばれています。休憩スポットとしても利用でき、郷土菓子と知覧茶のセットもおすすめ。



立ち寄りスポット



矢櫃橋(石橋)

麓川に架かる矢櫃(やびつ)橋は、嘉永5年(1852)頃に造られた石橋です。

石敢当

T字路の正面にある魔物を防ぐために立てられた石。





石垣、生垣、武家門と 水路の美しいハーモニー

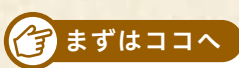


か せ だ ふもと 加 世 田 麓

加世田麓は別府城跡と新城跡の二つの山城に挟まれた曲線的な旧街道沿いの細長い平地を中心に広がっており、防衛上有利な地形にある麓です。切石の石垣、イヌマキを中心とする生垣、石垣の前に走る幅2mの用水路、街路と武家門をつなぐ用水路の上にかけられた石橋などから構成される美しい景観が、加世田麓最大の特徴です。用水路沿いにある石造りの洗い場や、先のとがった石垣の角石など、細かい特色も散策の楽しみの一つです。



- 加世田地区 公民館前 無料
- ニヶ城公園 竹田神社
- かせだ麓 ふれあい館



かせだ麓ふれあい館 南さつま市加世田武田18259-1 0993-52-7829

島津中興の祖・日新公の 武士精神を今に受け継ぐ麓

加世田麓は、島津中興の祖とよばれる島津忠良(日新公)を祀る竹田神社を中心に、現代にいたるまで武士精神を色濃く伝える史跡や伝統文化(土踊、加世田の水車カラクリ)などが数多く残っています。

- ①竹田神社
- ②土踊(稚児踊)…島津忠良が、出陣の前に家臣を集めて踊らせたのが由来とされます。
- ③加世田の水車カラクリ…神社前の用水路にかかる水車を動力として、人形を動かす伝統芸能で、夏祭り六月灯で披露されます。
- ④いにしへの道…神社に隣接するイヌマキの並木沿いに、藩の郷中教育の基礎となった「いろは歌」の四十七石碑が並んでいます。



旧鯉坂正一郎邸
明治36年頃に旧川崎邸の敷地に鯉坂正一郎が建てた和風建築。江戸時代の武家屋敷と比べて規模が大きいのが特徴です。



益山用水路
1768年、25代島津重豪の時代に、藩の事業として完成。幅2m、高さ1.7mの水路を竹田神社から益山まで約5km導いて、200haの水田を潤しました。



立ち寄りスポット

別府城跡
かつては、福寿丸(一の丸)、尼ヶ城(二の丸)、中之城(三の丸)からなる、川や湿地に囲まれた難攻不落の要塞でした。

旧鯉坂医院(登録有形文化財)を レトロなカフェとして活用

昭和初期に建てられた建物を改装し、現在はレトロな外観が目を惹くカフェとして女性に人気の店となっています。店内には素敵な雑貨や器も展示されています。

- ボツリ(旧鯉坂医院内)
- 【住所】南さつま市加世田武田18278-1
- 【営業】9:00~16:30(月~金) / 10:00~18:00(土曜)
- 【定休日】日・祝日 Tel.0993-52-7855





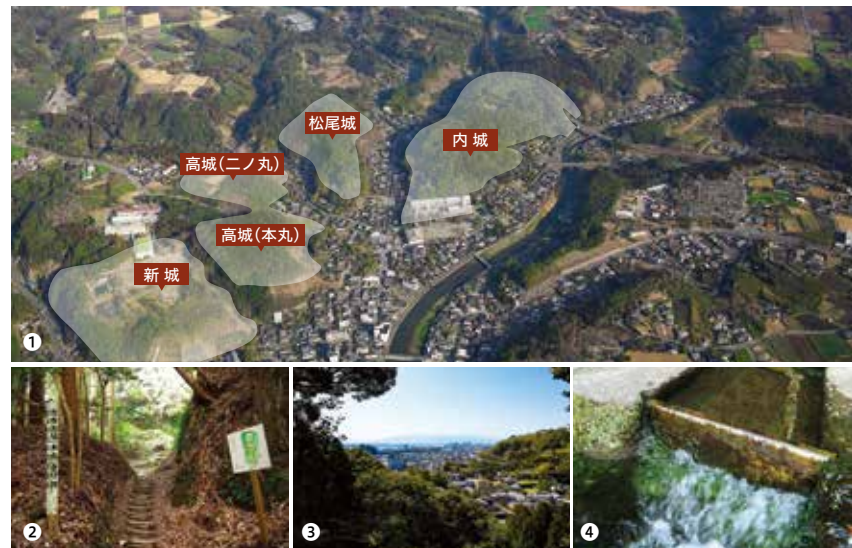
豊富な湧水で潤う 中世の香り立つ麓



4つの山城に囲まれた 自然との調和が美しい麓

志布志には戦国時代、内城、松尾城、高城、新城という4つの山城が築かれ、地域の支配者の居城となっていました。総称して志布志城と呼ばれているこれら4城の麓に武家屋敷群が形成されています(志布志城は江戸幕府の一国一城令で廃城となっています)。

- ① シラス台地の山裾に集落が広がる様子
- ② 志布志城(本丸)登口跡
- ③ 志布志城(本丸)からの眺め
- ④ 志布志麓のいたる所でみられる湧水



志布志麓庭園(平山氏庭園)

天水氏庭園・平山氏庭園・福山氏庭園は独特の地形を活かして造られた志布志麓庭園の特質を表す代表的な事例として傑出しています。



大慈寺

室町時代(1340年)に創建された寺院です。明治2年の廃仏毀釈で一時は廃寺となりましたが、明治12年に旧大慈寺宝地庵跡に再興され、現在に至っています。

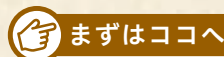


し ぶ し ふもと 志布志麓

志布志麓は高鍋藩との境にあり、藩の防衛上、特に重要な拠点の一つです。いくつもの台地からなる志布志城跡に挟まれた狭い谷筋に沿って線状に築かれた独特の立地を持ちます。周辺には宝満寺跡や大慈寺など、中世からの古刹もあり、長い歴史を感じさせます。麓の各所には山城の裾からの豊富な湧水があふれています。自然の岩盤を利用した武家門や枯山水庭園など、ダイナミックさもその特徴です。



P 麓地区 駐輪駐車場 無料
麓地区 駐輪駐車場
総合観光案内所



志布志市総合観光案内所(JR志布志駅舎内) 志布志市志布志町志布志二丁目28-11 ☎ 099-472-2224

立ち寄りスポット



津口番所跡

江戸時代には、前川河口に船着場があり、番所では廻船・貿易船の積荷を取り締まっていました。



志布志麓の隠れ家的な 古民家カフェでひと休み

美容師であるオーナーが「地域の景観を守りたい」との一心で、古民家を活用し、営業を始めたという「ウラカフェ」。古民家ならではの雰囲気と、おいしいランチなどが楽しめます。

【住所】志布志市志布志町帖4371
【営業】11:30~16:00 Tel.099-401-5430





日本遺産
薩摩の武士が生きた町
～武家屋敷群「郷」を歩く～
マップ

各郷近くの主要拠点からのアクセス

※詳しいアクセスについては、各郷ページの問い合わせ先までお問い合わせください。

鹿兒島城跡 JR鹿兒島中央駅から ⇒国道10号經由 車で約10分	入来郷 JR川内駅から ⇒県道42号經由 車で約25分	串木野郷 JR串木野駅から ⇒県道39号經由 車で約5分
喜入旧郷 JR喜入駅から ⇒南方神社方面へ 車で約5分	里郷 川内港から高速船で ⇒上甕島・里港下船 徒歩で約10分	蒲生郷 始良ICから ⇒県道57号⇒県道25号經由 車で約12分
知覧郷 南九州市役所から ⇒県道232号經由 徒歩で約3分	手打郷 川内港から高速船で ⇒下甕島・長浜港下船 車で約20分	垂水郷 垂水フェリー・垂水港から ⇒国道220号經由 車で約10分
加世田郷 南さつま市役所から ⇒国道270号經由 車で約5分	出水郷 JR出水駅から ⇒県道373号經由 車で約6分	志布志郷 志布志港から ⇒県道499号經由 車で約10分

【問い合わせ先】

日本遺産「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会事務局
(鹿兒島県教育庁文化財課内)

鹿兒島市鴨池新町10-1 TEL.099-286-5357